

令和元年度 【 学園研究費助成金< B > 】研究成果報告書

学部名 人間関係学部

フリガナ イホベ ヒロシ
氏名 五百部 裕

研究期間 令和元年度

研究課題名 ウガンダ、カリンズ森林におけるオナガザル科霊長類の採食戦略の解明

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	五百部 裕	人間関係学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

代表者は、H21～28年度、2期8年にわたりアフリカ産オナガザル科霊長類の採食戦略の解明を目指した科研費を受領しウガンダとタンザニアで現地調査を行った。そしてH29～31年度も関連するテーマで科研費を申請したが不採択となった。一方でこのような研究は資料を継続的に収集することが必須である。そこでH30年度は学園研Aによってウガンダに出張し継続資料を収集し、また今年度は学園研Bを申請し採択された。本研究では、当初は夏にウガンダで現地調査を行い新たな資料を収集することを計画したが、諸般の事情により出張できなくなった。そこで現地アシスタントによる資料収集を継続するとともに、これまで収集してきた資料を分析し、アフリカ産オナガザル科霊長類の採食戦略を解明することを目的とした。

2. 研究の推進方策 (300字程度で記述)

当初は夏に現地調査を行う予定であったが、諸般の事情により現地調査を行えなかった。そこで、使用目的は申請書段階から変更せず、ウガンダ共和国カリンズ森林に生息するオナガザル科霊長類の採食戦略の解明を目的とし、これまで継続して収集してきた資料を分析し、その研究成果を発表するために国内学会に出張するとともに共同研究者との打合せのための旅費として用いた。また現地で継続して資料収集にあたっているアシスタントに対する謝金としても利用した。その結果、アビシニアコロブス(クロシコロブス、*Colobus guereza*)の採食行動についての論文を共著で執筆し学術誌に投稿し受理された。またロエストモンキー(*Cercopithecus lhoesti*)のキノコ食についてまとめ、日本人類学会大会で口頭発表した。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

ウガンダ共和国カリンズ森林に生息するオナガザル科霊長類4種(レッドテイルモンキー、ブルーモンキー、ロエストモンキー、アビシニアコロブス)について、2009年以来継続した調査を続けてきた。このうちアビシニアコロブスはアフリカ大陸内に広い分布域を持ち、これまで数か所の調査地において彼らの採食行動が報告されている。一方カリンズでは、このような報告はなかった。そこで今回、これまで得られた資料を分析し、カリンズのアビシニアコロブスの採食行動の特徴を把握するとともに、他の調査地との比較を行った。その結果、調査対象群が食物として利用した植物種は31種であり、採食時間割合の87%は若葉であった。ただし利用する部位には季節差がみられ、果実や種子の採食時間割合が45%になる月もあった。そしてこうした変化は、若葉の現存量と相関していたが果実の現存量との相関はみられなかった。また利用していた若葉のうち、*Celtis durandii*が58%を占めており、この種がカリンズのアビシニアコロブスの生存にとってたいへん重要であることが明らかになった。

次にロエストモンキーのキノコ食についての分析を行った。これはロエストモンキーの観察中に、彼らが頻繁にキノコを採食しているという印象を受けたからである。採食しているキノコの種同定はできていないので、キノコ食の採食時間等について分析した。その結果、採食時間の約10%がキノコであることが明らかになった。これはカリンズにおけるロエストモンキーの採食行動に関する先行研究の2%未満と比べ長く、ルワンダのニュングエ森林における研究と同程度であった。また霊長類におけるキノコ食はこれまで6科59種で報告されているが、南米のマーモセットやゲルジモンキーでは採食時間割合が30%を超えることもあり、ロエストモンキーが特別に長いわけではないことが明らかになった。今後はキノコの栄養価や毒性などを分析し、ロエストモンキーにおけるキノコ食の位置づけを解明していく必要があると考えられた。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①ウガンダ	②カリンズ	③オナガザル	④レッドテイルモンキー
⑤ブルーモンキー	⑥ロエストモンキー	⑦アビシニアコロブス	⑧採食戦略

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

- Matsuda I Ihobe H Tashiro Y Yumoto T Baranga D Hashimoto C, The diet and feeding behaviour of the black-and-white colobus (*Colobus guereza*) in the Kalinzu Forest, Uganda, Primates, in press.
- 五百部裕、ウガンダ、カリンズ森林に生息するロエストモンキーのキノコ食 (予報)、第73回日本人類学会大会、2019年10月13日、佐賀大学。